

くにびき通信

2023年 10月号

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

はじめに

今年も10月に入り一気に気温が下がり、北三瓶の住民も服装が秋冬ものになり、子どもたちも服装が冬用になりつつあります。10月は旧暦でいう長月（ながつき）と言われ、これは秋の夜長を表した「夜長月（よながつき）」になったと聞いたことがあります。子どもたちは、秋の夜長に収穫祭の準備に明け暮れています。

さて、山村留学センター近くの田んぼには黄金色に実った稲がコンバインで刈り取られ、刈り取られた稲株から緑の新芽が伸びて景色が変わってしまいました。10数年前までは、手や稲刈り機で刈った稲を「稲架（はで）」（読み方は様々）に干して脱穀するという農作業が一般的でした。山留生は労を厭わず、お互いに協力し合いながら昔ながらの手作業を行い、農業の大変さを知るとともに、食べ物に対する感謝の気持ちを育むことを目的に山留生も作業の体験をしました。また、子どもたちが作っている農作物も夏野菜もすっかり姿を消し、残すは大豆と里芋、サツマイモが残っているばかり。今年は、野生の猿が出没し、センターでも被害がありました。それで、収穫期を待っている野菜が被害にあわないか心配です。そして、スイカやナスがあった跡には大量の白菜が植えられて、冬の鍋が楽しみな今日この頃です。

また、子どもたちは学校の帰り道で地元のおじいさんから栗やイチジクをもらい、センターへ帰るなり「これもらったよ」と教えてくれます。栗は栗ご飯に、イチジクはデザートに子どもたちのおなかの中に消えていきました。この地域の食べ物に満足していると思います。来月の18日と19日は令和5年度収穫祭。皆様のご来場をお待ちしています。

センター長 矢田 孝之



今回の活動カレンダー



日にち	活動内容
9月23日(土)晴れ	サビキ釣り
9月24日(日) 晴れ	稲刈り(徳原の田)
10月7日(土)曇り	親子脱穀
10月8日(日)	食文化体験

日にち	活動内容
10月9日(月・祝)	畑作業・個人活動
10月14日(土)	粳摺り・個人活動・さんべ祭太鼓演奏
10月15日(日)	個人活動

サビキ釣り 9/23 (土)



今年度3回目となる釣り活動。今回のサビキ釣りで狙ったのは、骨まで食べられる「豆アジ」です！釣竿の先に5～6本の小針がついた糸を結び付け、解凍アミエビを餌に豆アジを誘いました。結果午前7時から10時までの間で、たくさんの豆アジを釣ることが出来ました。釣り活動は学園生同士のペアで行動したのですが、とあるペアは合計106匹の釣果を得ていました！爆釣する楽しさを体感した学園生達。豆アジは南蛮漬けにして、センターの稲刈りでお世話になった地域の方におすそ分けしました！

稲刈り(徳原の田) 9/24 (日)



5月にセンターの田んぼとして稲苗を植えた徳原地区の田んぼ。今年は雨がよく降り収量の多い見込みだったため、刈り方もより効率のいい「バインダー」という機械を使った形をとりました。学園生はバインダーを操作する人と、その刈り残しを鎌で回収していく人とでペアになり稲刈り作業をしました。この活動の肝は何といっても、サポートしてくださった7名の地域の方の存在。学園生の指導に加え、軽トラックへの積み込み、センターまでの運搬などたくさん手伝っていただき、午後にはナガラ架けを終えることができました。

親子脱穀

10/7(土)



学園生と保護者が一緒に活動に取り組む「親子脱穀」。粃摺りの際に判明したのですが、何と今年徳原の田んぼで採れた米は、昨年度採れた量の約2倍に相当する収量でした！今回は午前中に学園生だけである程度の作業を終了させる目的でコンバインという機械で脱穀を行い、午後は昔の農機具を使う体験型の脱穀を行うことにしました。

午前中は受入農家の大國さんにご指導いただき、テンポよく機械脱穀をしました。コンバイン内に貯蔵された粃を粃袋に排出していく工程は快感！そして保護者が合流した午後は、本命の親子脱穀をいよいよ開始。「足踏み脱穀機」「千歯こぎ」「唐箕(とうみ)」という農機具を使っの作業です。学園生は歌を歌いながら唐箕を回すなど、ご機嫌で活動に取り組んでいました！しかし昔の人は、脱穀ひとつとっても、これらの道具を使い家族総出で毎日遅くまで農作業をしていたとのこと。機械と先人の凄さを体感しました！

食文化体験(大田市内未就学児親子活動) 10/8(日)



今回行った「食文化体験」は、羽釜ご飯・手作り豆腐・手作りこんにゃくづくりに挑戦してみる調理活動！大田市内のお子さんも参加できる活動として、学園生・保護者・市内親子の皆さんが一緒になって調理に挑戦しました。活動後半には、なんと大田市教育長さんも見学に来られました。

今回の活動でとても「ステキだなあ！」と感じたのは、学園生が年下の子ども達をリードしながら、一緒に活動を楽しんでいたことです。「見て！竈の火が緑色になった！」「これ一緒に洗おう！」などと、火起こしや片づけを通して関わり合いが深まっていく様子がたくさん見られました。保護者や市内親子も普段触れることのない火の活動やこんにゃくの感触が新鮮だったようです。いつもと違う人との交流が、新たな楽しさを生み出していました。苦勞して作ったお昼ご飯はもちろん絶品でした！



粃摺り

10/14(土)

親子脱穀で取り出した徳原の粃を、受入農家の矢田さん宅で粃摺りさせていただきました！粃摺り機に入れられた粃は、機械を通して粃殻を外され、自動的に玄米だけが主排出口から出るようになっています。そこに空の米袋をセットし、中身が一杯になった袋の口を閉じ、軽トラックに積み込んでいくのが人力仕事。学園生たちは交代制で、一通りの作業を経験しました。1袋30kgもある米袋ですが、男子女子問わず皆たくましく荷積みしていきます！小学生2人は落とさないように、一緒に米袋を持って運んでいきました。皆が5月に植えた苗が、これほどの重さになって帰ってきたんだね～。

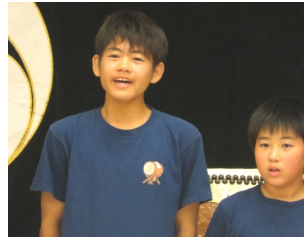
最後の少量は昔ながらの秤で重さを計測。合計で米袋が13袋半できました！収穫祭で、お世話になってる方々にお披露目するのが楽しみです！



さんべ祭 太鼓発表

10/14(土)

1 学期の五十猛祭での太鼓発表に続き、
2 学期初の太鼓発表の舞台は「第43回さんべ祭 前夜祭」！豊年太鼓、ぶちあわせ太鼓、三宅島太鼓の3 演目を披露しました。学園生の司会進行でパフォーマンスが始まり、太鼓掛け声で最終演奏の盛り上がりはピークに達しました。2学期に入ってから太鼓の楽しさに目覚めたという学園生もおり、そんな気概が伝わってくるような迫力ある演奏。観客の人々の盛大な拍手をいただきました。



西村崇司のつぶやき

＼ 小説「ぼくは勉強……」 ／

穴埋め問題ではありません。みなさん気楽な気持ちで……を埋めてみましょう。

勉強はきらい、勉強よりダンスが好きだ、勉強ができない、勉強をしたくない、勉強はできないけれど〇〇先生は好き、勉強が大好き、勉強はきらいだけれど学校は好き、などなどいろいろ思いつきますね。自宅で思いつけず山田詠美さんの小説「ぼくは勉強ができない」という単行本が出てきました。とても思い出深い本です。この本は、今はなくなったまちの本屋さんで買いました。「勉強」を題名に入れるハウツー本はたくさんあるんでしょうけれど小説に使った「勉強ができない」の背表紙がとても新鮮で手に取り立ち読みし、勉強ができず字もきたないと自負する高校2年生男子の主人公が魅力的で即決で買いました。今回改めて本の奥付をみると文芸誌の初出が1991（平成3）年、単行本化が1993（平成5）年で1994（平成6）年17刷となっているので、わたしが30歳になった頃に書かれた本で33歳以降に買って読んだ本ということになります。ちょうどこの頃から小説を読んでいないこともあって、今回再読に挑戦しました。やっぱり一気に読めました。どこに感動したのか感情移入できたのかについてどうやら当時と共通項があるように感じました。

勉強は子どもも大人もできれば避けたい領域でしょう。子どもは勉強をしなさいと言われ、大人は子どものときにもっと勉強しておけばよかったなと悔やむことは誰でも経験するはずですが。このセンターで多くの学園生と接してきて、やはり学習面のことは気になります。多くの子どもたちはテストで良い点をとるためには勉強が必要と考えがちで、大人も子どもの勉強の理解度の指標としてテストの点数を気にすることはよく理解できます。しかし、学園生はまだ小学生と中学生です。いろいろな場面での学び方を学ぶこと、新しいことを知ることは楽しいことだということを知ることが一番大事だと、この本で再確認できました。新たな発見もありました。あとがきによると、「主人公は高校2年生の男子だが、私はむしろこの本を大人の方に読んでいただきたいと思う。時代の真ただ中にいる者は、その時代を読み取ることは難しい。・私にとっての高校時代はもうすではるか昔のことである。そう自覚した時、はじめて、私はこの小説を書き始めた。同じように自覚した大人の方がこれを読んだとき、どのように感じるか知りたいなあと、私は、思う。・・」。わたしも高校時代がはるかに昔となった頃に読んだ時、全く同感だと思いましたが、ずいぶん年上と思っていた山田詠美さんはわたしよりたった2歳年上だと今回初めて知り驚きました。この本では主人公の周りの人も魅力的で、わたしのお気に入りには主人公の母親です。文中の年齢からこの母親のモデルは作者の山田さんだとひそかに確信しています。小説にはこういった想像の楽しさもあります。ときには小説を手にとってみましょう。

「くにびき通信」2023年10月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL:0854-86-0700 FAX:0854-86-0701 Email:o-sanryu@city.oda.lg.jp



大田市山村留学センター
公式ホームページ



くにびき通信
カラー版